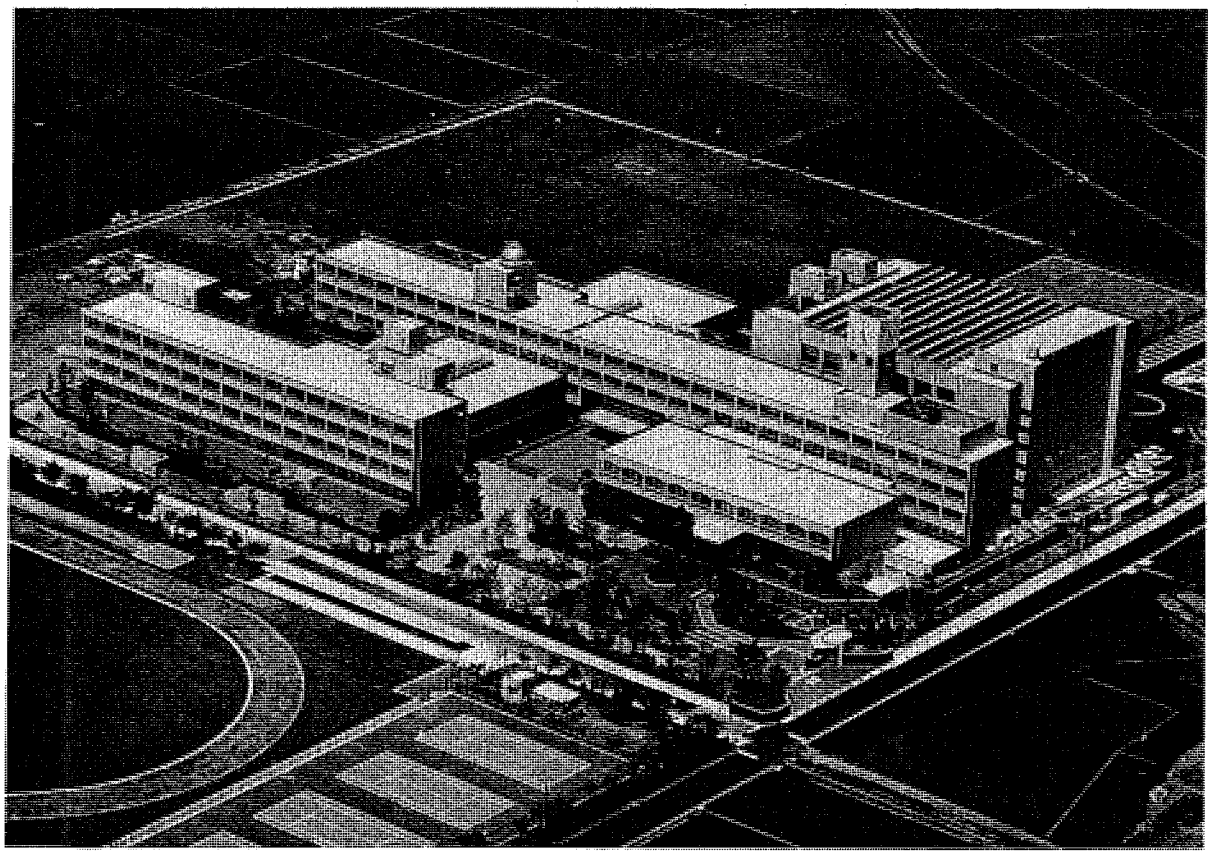
聖朋



同窓会報

創刊号

会　員　数	693名
1期（S61卒）	120名
2期（S62卒）	62名
3期（S63卒）	157名
4期（H元卒）	354名

聖徳学園短期大学附属聖徳高等学校・同窓会

祝『聖朋』発刊

ごあいさつ

校長　川並弘昭

月日のたつのは早いもので、本校が小貝川のほとりの広々とした水田に囲まれたここ藤代の地に開校してから、はや、六年余りの歳月が流れました。このたび卒業生の皆さんの間から、同窓会報を作成しようという気運が盛り上り、創刊号が近く発行されることは、まことに意義深いことであり、また、それだけ卒業生の数も多くなったことによるものと感じて、ご同慶に存じます。

考えてみますと、今の若い人たちは、幼稚園をはじめとして、小学校・中学校の義務教育から、さらに、高校・短大・大学と、完備したわが国の教育制度の中で、それぞれに自分で選んだ道を学んでまいります。そして、その時々に先輩や後輩など多くの友人に恵まれますが、特に机を並べて学び、肩を組んで走り、うれしいこと、哀しいことを共に喜び、涙し合った同級生という結び付き、友情は人生の宝物でありましょう。その中でも、とりわけ多感な青春時代に同じ学校に学んだ共通の体験は、卒業後何年たっても、在学当時の思い出が、つい昨日のことのように蘇ってきて、いつまでも忘れられないものであります。

まして、本校は新しく、特色のある女子の中学・高校であります。昭和五十八年四月に入学された第一期生や、二・三期生など創設期に本校に学ばれた皆さんには、今日の本校の発展が想像できなかったかと思います。思い起せば、創設当時は堂々とした白亜の校舎が周辺の田園風景にまだしっくりとせず遠くからも目立っていました。屋上の大時計だけは、近所で働く農家の方には便利で喜ばれていたという話があったほどでした。バスも不便であり、その他、種々の苦労もありましたが、皆さんが「聖徳学園ここにあり」という意気込みで、通学の際は勿論のこと、ご近所で働いている方々にも、明るくあいさつをして、礼儀正しい生徒さんだという評判を広め、一方では、自分を磨き、努力を重ねた卒業生の皆さんの精進された姿はりっぱでした。さらには、新設校を早く充実させたいと尽力された先生方、並びに保護者のご支援と三者が一体となっての協力があったからこそ、本校の声価が年ごとに世間に高まり、現在の盛運をもたらしたものと思います。これからも皆様の益々のご協力をお願いいたします。

この同窓会報「聖朋」も今回がはじめての発刊ですから、ページ数も少なく、比較的簡素なものになることかとは思いますが、今後次々と発行される会報は、号を追って、内容の濃いりっぱなものに成長してゆくことと信じています。それがとりもなおさず、聖徳中・高がさらに充実発展してゆく姿の反映そのものとなりましょう。

どうか、これからは平成元年にスタートした「聖朋」会報を活用されて、卒業生の皆さんがお互の消息を知り、友情を深め合って、末長く聖徳学園の建学の精神である「和」の具現化に役立てていただければ幸いに存じます。卒業生の皆様の一層のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、同窓会係の先生方、並びに、会長はじめ役員の皆様のご尽力に感謝いたします。

私の感想の一端を記して、同窓会報「聖朋」創刊のごあいさつといたします。

創刊に際して

聖朋会会長　櫻井寿美余

卒業して、短いものでもう四年がたってしまいました。後輩の卒業式・入学式に会長として出席する度に、「活動をしなければ…」と、思うのですが、なかなかきりだせず、ここまできてしまいました。

今回、聖朋会担当の先生方の御指導のもと、四月上旬ごろ四期生までの幹事・各役員が集まり顔合わせをしました。一期生二期生は、短大を卒業し、就職しているということもあって、今年の事業計画として、〝聖朋会員名簿作成〟と〝第一号の会報〟を作ることに決定しました。

名簿作成の際、ハガキを郵送・回収・下書き・未回収の人への電話と、役員、幹事も必死のようでしたが、久しぶりの友人との会話もはずみ、笑顔が見られる姿もありました。

会報の方では、学園長をはじめ諸先生方に、おいそがしいなか、お言葉をいただきました。

この事業をきっかけに、幅広く活動をしていきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

同窓会の名称について

名誉校長
蓮沼節哉

このたび卒業生の皆さんが話し合って、聖徳中学は三期生まで、高校は四期生まで卒業し、各方面で活躍するようになったので、この機会に同窓会報と名簿を発刊して、お互の連帯の絆を一層固くしようという計画が進んでいるとのこと。まことに時宜を得た計画であると思います。心から発刊をお祝い申し上げます。

実は過日、同窓会担当の先生から、聖徳高校の同窓会にふさわしい名称をつけたいが、まだこれといった名前が浮かばない。ついては、本校の創設準備委員長なども、創設当初から縁の深いことだから、私に是非よい名前を考えてほしい。との依頼がありました。それではということで、私もあれこれと書いては消し、消しては書きして、考えてみました。条件としては、第一に聖徳の「聖」を入れること。第二に上品な感じのする文字であること。第三にことばの響きのよいことなどを考慮に入れました。

幾つかの案のうち、校長先生のご承認を得て、最終的には「聖朋会」に落着きました。「朋」という字には「朋友」という熟語があり、ともだちの意味であることは、皆さんもご承知と思います。さらに漢和辞典で調べてみると、「朋」は「同師同門の友人」とあり、「友」は「志を同じくする友人」と解説してあります。従って、「朋」という字は、「聖徳学園で同じ先生方に学んだ友人たち」を意味することになります。また、有名な「論語」という中国の古典の最初の一章は、「学びて時に之を習う。亦説ばしからずや。朋遠方より来たるあり亦楽しからずや。……。」という文章で始っています。（在学中私の漢文の授業をよく聴いていた人は、思い出すことでしょう。）この中にも「朋」という文字が使われていて、品格のある字と申せましょう。さらに、「セイホウ」という発音は、耳に快く聞えると思いました。

以上が命名の理由でありますが、願わくば、この「聖朋」という名称が末長く愛用され、それと共に聖徳中・高、並びに「聖朋会」がますます発展して、本校が女子教育の名門校として、その名が世の中に一層広まることをお祈りいたします。

同窓会報発刊にあたって

副校長
篠原寛

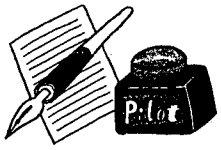
この度、同窓会の役員のかたがたの御尽力により、同窓会報創刊号が発行されることとなり、心よりお喜びを申し上げます。

本校は、昭和五十八年四月に、近代的設備を誇る女子校として藤代の地に開校されましたが、第一期生の瀑刺とした制服姿が今でも印象深く心に残っております。初期の頃は、生徒数は多くありませんでしたが、それだけに、皆さんが通学の便のハンディキャップに負けずに元気よく登校し、お互いに切磋琢磨しながら、学力、礼節、情操などを懸命に培った三年間だったと思っております。第一回生と第二回生の卒業式では、川並校長先生から卒業証書を一人ずつ渡していただきましたから、皆さんには感慨一入深いものがあったことと思います。お陰さまで、現在の本校では、登下校時、学園までスクールバスが運行され、普通科、英語科、体育科、音楽科を設置する四十クラスの学校に発展いたしました。来春は聖徳中学校の第一回生が高校を卒業することになる訳で本当に嬉しく思っております。また生徒寮として最新設備の「和弘寮」が昭和六十三年四月、校内に開設されました。本校がこのような発展の姿を迎えることが出来ました大きな要因として、本校同窓生のかたがたが、本学園短大をはじめその他の上級学校で懸命に努力し勉強されていること、また信頼される社会人として立派に活躍されていることがあげられると思います。さらに、本校の教育方針に御賛同下さって、姉に続いて妹を入学させて下さったり、本学園短大御出身のお母様がお子さんを進学させて下さったりして、本当に有難く思っております。

私学が独特の校風を持つ学園として充実発展していくためには、そういう同窓生のかたがたのお力添えが非常に大切だと思います。同窓生のかたがたは、母校という精神共同体の一員として、母校とは深い絆で結ばれている訳です。本校で培われた教養と情操、礼儀正しさと思いやりの心。深められた友情などは人間として大切なものばかりです。どうぞ本校卒業生としての自信と矜持を忘れずに、今後とも大いに頑張っていって下さい。私達も、いつまでも母校が皆さんの「心のふるさと」でありますように懸命に努力していくつもりです。いずれ開催される同窓会への、多くのかたがたの御出席を願いながら、私の御挨拶を終らせていただきます。

これは余談になりますが、私は茨城県の旧制竜ケ崎中学校（現竜ケ崎一高）を、昭和十四年三月（一九三九）に卒業したので、今年は卒業以来五十周年に当ります。それで記念文集を作ることになり、私も編集委員の一人として、旧友の原稿集めをしています。私共の同級生は大部分の人が、あの第二次世界大戦に従軍し、惜しくも若くして散華された方も多く、百十七名の卒業生のうち、現存者六十四名になってしまいました。しかし、七十才近くになった今日でも、お互いに顔を合せれば、五年間机を並べた少年の昔に還って、経歴も職業も関係なく歓談しています。いささか手前味噌になりますが、これが同師同門の友「朋」の姿かと思います。

どうか皆さんもいつまでも母校を忘れることなく、仲良くそして健康で、それぞれの道で活躍されることを心からお祈り申し上げます。



近況短信

一期生（昭和六十一年卒）

野口　恵

「おはようございまーす」と、大きな声がセンターに響きわたります。声の主は知恵遅れの二十歳の女の子です。この声はどんな時でも私の気持ちを明るくしてくれるのです。

私は今年の四月にできたばかりの『竜ケ崎市総合福祉センター』に勤めています。私の仕事は『在宅障害者デイ・サービス』というもので地域において就労の機会を得がたい在宅障害者が、通所して創作活動や日常生活訓練を行い、生きがいを高め、その自立を図るのが目的の事業です。仕事の難しさ、そして環境に対する慣れも手伝って毎日の仕事は機械的、画一的になりがちですが「おはようございます」の声に初心を忘れず、暖かく人間的に、この人達とつき合っていかなくちゃいけないんだと、いつも自分に戒めています。

本当に大変な仕事だけど、やりがいを感じています。

神津　真由美（紫原）

ふとふり返れば、高校を卒業して四年。この四年間、私の人生は変化が多かったように思います。結婚に出産。あわただしく時は流れました。十九才の時、十四才年上の今の主人と結婚。二十才の時、長男拓哉を出産。その拓哉も今は一才六ケ月のやんちゃ坊主、そして私のお腹の中には、又新しい生命が宿っています。あっという間に主婦になり二児の母になり、今は子供と戦争のような日々を送っています。今の二十二才の女性がもつ恋愛やファッションの悩みなんて嘘のよう。

私の考えることは、夕食は何にしよう…こんな感じです。ただ人それぞれ違った人生の中、少し早く女としての幸せをつかみ、今はがむしゃらに生きています。あたり前の一日の中、子供のことで感動し、気の強い私が何度涙を流したか分かりません。今、こうしてあらためて文章を書くなんて何年ぶりかで、とまどってしまいますが、友人を含め全ての人々に一言。

二度とない人生だから、一日一日を後悔しないように、大切に生きましょうね。

三期生（昭和六十三年卒）

島田佳子

卒業して早くも一年と数ケ月が過ぎました。現在、私は芸大の声楽科生（一年）として通っています。

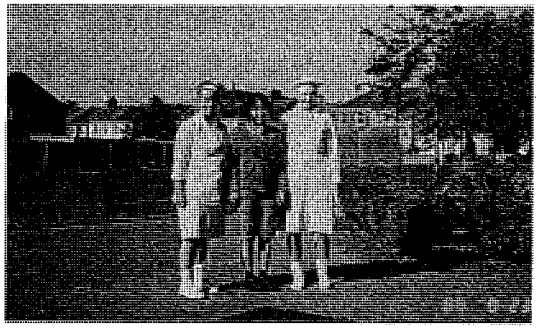
私は小さい頃から歌が好きで、よくその当時の歌手のまねをして親戚の人に拍手され喜んで歌い続けていたのを覚えています。気づいたら今、この歌を専門としているなんて……あの当時はもちろん中学生の時まで思ってもいなかったでしょう。県立校に落ちてしまいただ単に音楽が好きだったからということで聖徳へ両親が勧めてくれました。好きなものを伸ばせと。その時の両親に対する感謝の気持ちは一生忘れられません。

毎日、緑豊かな自然の中で、大声で練習するのが、私と友人の放課後の楽しみでした。放課後、中学棟から見おろす藤代の夕景は、私たち芸術を志す者にとってとてもすばらしい原料ともいうべきで感情豊かにさせてくれました。ですから、高校での音楽勉強は皆快いものだったのではないでしょうか。

今、大学で週一回四十分という短いレッスンですが高校時代よりもより一層厳しく、緊迫した雰囲気で受けています。高校の時は、ほんとうに自由に甘えさせて頂いていましたから……。やはり大学というのは専門を学ぶところなので〝たとえ熱が出ようと何だろうと、レッスンを休んではなりません。レッスン室へ来て倒れたら、そこでレッスンを終りにします〟と私の先生はおっしゃいました。というのは、私たちは演奏家をめざすのだから、もしステージの上で体調がくるっても日頃のレッスンで同じ体験をしておけば……ということなのです。

〝演奏家〟音楽を志す者なら誰しもがあこがれるものです。が今の私にとって高校の時、1から教えて頂いたこと、聖徳での私の声楽の歩みを……つらくはありましたが先生方、両親、そしてあの大自然への感謝の気持ちをもって一歩一歩、めざす目標へと進んで行きたいと思います。いろいろ校風はあったものの、やはり聖徳というところが好きでした。あの三年間が、いろいろな事が出来た三年間があって今の私があるのです。

〝聖徳ありがとう〟この一言です。



武藤典子

この夏、私は来年四月から就く職探しをしなければならなかったのですが、一大決心をして、イギリスに行きました。

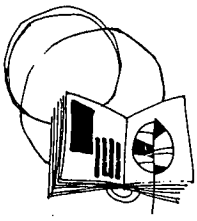
七月末から八月末までの約一カ月の予定で日本を離れました。十一時間半の快適とは言えない空の旅を終えると、そこは美しい街並みの広がるイギリスでした。私の長年の願いがやっとかなえられてとても感激でした。しかしそれと同時に異国の地での生活に不安も感じました。滞在期間の三週間は大学都市として世界的に有名なケンブリッジで現地の家庭にステイしながら語学学校に通いました。

初めてステイ先に行くタクシーの中では緊張と不安で、私の頭の中は〝どうしよう、どうしよう〟とそればかりでいっぱいでした。しかし、異言語、異文化に対する私のそんな不安も、ステイ先の家庭の人々が快く私を迎えてくれたので幾分和らげられました。

最初の一週間はとても長く感じられ、精神的にもつらい毎日でした。学校のレッスンでは先生の英語を聞きとることができなくて何をやっているのかさっぱり分かりません。中学二、三年程度の文法なのにと思うとくやしくてたまりませんでした。家に帰っても誰かがジョークを言ってみんなで笑っていても私だけは笑うことができません。自分の英語力に自信がないので積極的に友人を作ることもできず一人で公園にいることが多くなりました。

しかし二週間が過ぎ三週目に入ると言っていることが大体分かるようになり、ケンブリッジでの生活にも少しずつ慣れ、友人もできて楽しくなりました。

中学、高校、短大と合計七年半英語に対して受け身だった自分にとって、今回の経験は英語に対する私の考え方を変化させました。そのことだけでもイギリスに行って本当によかったと思います。



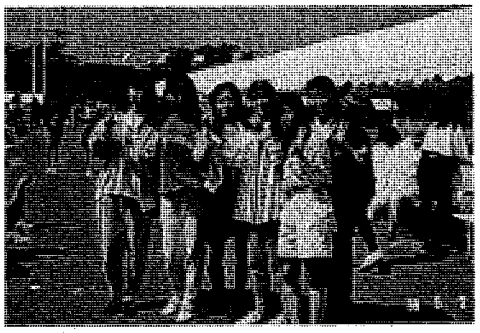
四期生（平成元年卒）

佐野順子

私は今、美容の専門学校へ通っています。週5日制で、授業は一日、午前中に四時間、午後に三時間と七限目まであります。一日の授業のなかには、学科と実技が半半に組まれていて、一週間のうち一日だけオール実技の日があり、その日はほとんど立ちどうしなのでとても疲れます。また、学科の授業も実技の授業も初めて習うものばかりなので、覚えることが多くてたいへんです。

クラスメートは、ほとんどが同じ年ですが、なかには年上の人や北京や台湾からの留学生もいますが、みんな仲良くやっています。担任は女の先生なんですが、けっこうきびしくて、それでいて、とてもひょうきんな先生です。

来年は、インターンとして就職することになるので、たくさんの技術を習得して、職場で十分活躍できるように、がんばりたいと思います。



（左端）

白井亜矢子

高校と短大では、授業のしくみや学校生活がだいぶ違います。

私が高校の時は、短大生は気楽でいいなと思っていたのですが、見た目と実際では、かなりの落差がありました。

私は初等教育学科人間教育コースに在学しているのですが、授業は必修と選択があり、必修（80単位）を二年間で取らないと留年になってしまいます。

特に初等教育学科と保育科ではピアノが必修で週一回ひとり10分ほどの個人レッスンの授業があります。ここまで弾けなければいけないという段階があり、ピアノの経験が浅い人には厳しい道のりとなるでしょう。

短大では誰も助けてくれません。ひとりの人間として見られるので、それに負けないぐらいに頑張って、いい成績や友人関係をつくれるようになりたいと思います。

（後列左より２人目）

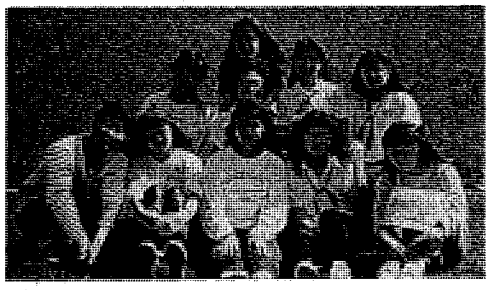
海田直斉能

去年聖徳高校を卒業しまして、突然私は、横浜にある東洋英和女学院短大という憧れの所で勉強をすることになりました。

これはもちろん家から通える距離ではありますが、冒険をしてみようと思った私は親元を離れ、一人暮らしという生活に挑戦したわけです。何も分からず、最初の頃はとまどいました。又、家事というか掃除や洗濯、料理などと……学校の宿題を両立させる事も大変でしたが、新鮮だったので楽しかったというのもうそではありません。なにしろ私自身が選んだ道です。将来に向けて一歩でも近い理想の大人になるための大切な二年間として、ここで精一杯頑張ります。あっという間だとは思いますが、この貴重な体験を何も残らないなどとならぬよう……いつか生かせる時が来るまで、今の時をすごしたいと思っています。

高校時代では分からなかったものや知らなかった事など、聖徳を離れ、また違った角度から見れるようになりました。

まだまだ未熟ではありますが社会を通して、これからをみつめていきたいと思っています。



（前列右より２人目）

聖徳高等学校　近況報告

生徒数千五百余名

4年（13クラス）	576名
5年（14クラス）	601名
6年（10クラス）	401名
生徒数	1,578名

（9月1日現在）

〝三種目〟四国インターハイへ〟

器械体操、国体にも出場

体育系

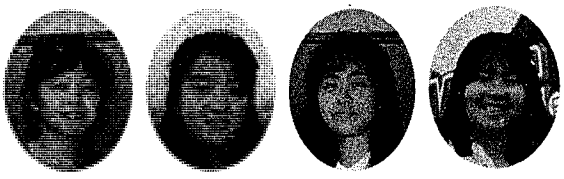
六月　関東高校選手権大会出場
■陸上競技（茨城）
■新体操（山梨）
■器械体操（山梨）
■水泳（埼玉）
八月　全国高校総体出場
■陸上競技（高知）
走巾　児玉綾子（六S）
七種　同　第三位
■新体操（香川）
団体
個人　吉野和美（六S）
■器械体操（徳島）
個人　風見直子（五S）
九月　国民体育大会出場
■器械体操（北海道）
個人　風見直子（五S）

文化系

四月　文部省認定ペン字検定優秀団体賞受賞
八月　第29回県吹奏楽コンクール第一部門で銀賞受賞

役員紹介

宮田　理加　斎藤　華子　天田由紀子　櫻井寿美余



鈴木　弘美　三友ゆう子　海老原里佳　川上　歩

会長　櫻井寿美余
副会長　天田由紀子
監査　斎藤　華子
宮田　理加
書記　川上　歩
海老原里佳
会計　三友ゆう子
鈴木　弘美

編集後記

三月十九日に第一回の役員会を開催して、以来何回か会を重ねた結果、会報〝聖朋〟をお届けすることが出来ました。

桜井会長の熱意と委員の方々の努力、そして先生方の御指導の賜ものと感謝致しております。

創刊号ということで、未熟な点も多いと思われますが、何卒御寛容の程、お願い申し上げます。

発行
茨城県北相馬郡藤代町
山王中田一〇〇〇
聖徳学園短期大学附属
聖徳高等学校同窓会
印刷
すざき印刷
電話〇二九八―四一―〇六六九

県民総体　兼国体県大会

県民総合体育大会兼国体予選は二日、陸上、成年8人制バレーボールなど各競技が行われた。

陸上では、女子七種競技で児玉綾子（聖徳高）が昨年の全国高校2位の記録にあたる県高校新を出して優勝。男子円盤投げで山崎裕司（茨城ボ溪）が大会新、同やり投げでも稲田大人（国士舞ク）が県新をマークした。バレーボール成年男子は日立国分、女子は日立佐和が優勝した。

児玉　聖徳が県高校新7種

男子円盤　山崎裕司（茨溪ク）大会新で優勝

陸上

【男子】
▽百メートル　①坂口裕幸（竹友ク）10秒72②青山（日大）10秒88③三上（聖大ク）10秒93
▽四百メートル　①長谷川聡（一橋大）49秒92②間庭（住友金属）49秒69③湯田（結城一高）50秒04
▽千五百メートル　①高野公久（住友金属）4分1秒6②兼子（日立電線）4分2秒1③上野（大宮電）4分2秒6
▽一万メートル　①篠田明広（小森印刷機）29分5秒1―大会新②並塚（日体大）29分53秒9③大賀（東修大）30分19秒9
▽百十メートル障害　①小林誠二（日立多賀）14秒4②下河辺（神栖高教）14秒4③兼本百体大）14秒7
▽千六百メートルリレー　①上浦日大高A（高原、水飼、熊谷、吉田）3分18秒5②水戸桜ノ牧高3分21秒6③土浦日大高B3分23秒5
▽走り高跳び　①山本好徳（県立太田）2メートル05②宮田石

磨けば光る小柄な大器

児玉

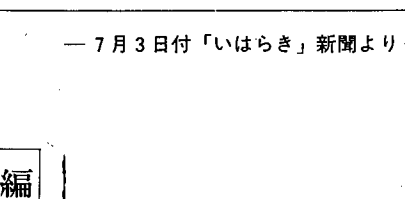
159センチ、52キロの小柄な体のどこにパワーが潜んでいたのだろう。上種を始めてちょうど一年。公式大会三度目で、昨年の全国高校ランク2位の記録を樹立した。

百メートル障害、走り高跳び、砲丸投げ、二百メートル、走り幅跳び、やり投げ、八百メートルの三日間で消化するハードな競技。どの種目もムラなく得点することが上位を目指す選手の条件となる。

中学時代は走り高跳びを専門にしていたそうだが、高校進学後にいろんな種目に挑戦。「荒削りだが基礎体力が抜群」と見抜いた小川徳二教諭に勧められて転向。「得意なのは走り高」だそうだが、走り幅跳びではインターハイの出場権も得ている。「とにかく投げればいいや」というほど苦手な砲丸投げも無難にこなした。

目下、大会のたびに記録を伸ばし、九月の日本選抜選手権では優勝も射程内と関係者も期待する。

「磨けば磨けるほど光る気がします。とにかく上を狙わせたい」と小川監督が太鼓判を押す未来の大器。



〈陸上▽女子七種競技で県高校新をマークした児玉綾子（聖徳高）の800メートル＝共松運動公園陸上競技場〉

―7月3日付「いはらき」新聞より―